私の意見

商取法改正について

カネツ商事会長　清水　清

6年ぶりで行われる商取法（商品取引所法）の大改正が国会で審議され、いよいよ来年4月をめどに施行される予定である。

改正の内容を検討する産業構造審議会商品取引所分科会では第1回から傍聴席を設け公開された。また、主務省からそのつど、先物協会や取引員に対し説明がなされ、何度も意見交換をしてきた。このようなことは過去に例はなかったのではないかと思う。商取法改正にご尽力されてこられた主務省を始め、先輩諸氏、先生方に敬意と感謝を表する次第であります。

今回の改正では一つ一つが全て重要案件である。中でも取引員にとって関心の高いのは証拠金制度と純資産要件の見直しではないだろうか。

「お客さんは神様である」と有名な歌手が言ったが、歌の世界だけでなく、我々の商品先物取引業界でも同じことが言える。

その神様（委託者）は日々価格が高くなるか安くなるかのリスクにさらされ、その損得のリスク以外に預けた証拠金がどこへいったかわからなかったり、取引を行った取引員がデフォルト（経営破綻）等で証拠金（益金も含む）を返してもらえないといったリスクまで負っていたら、神様も逃げ出したくなるのは無理もない。

そこで今回の改正では証拠金は全て取引所に預託し、過剰分も完全に分離保管される。違反した場合の罰則まで明確にされた。委託者にとっては、先ずは安心である。

証拠金制度についてはお客様にとって解りやすく、取引員や取引所にとっても使い勝手の良い証拠金制度を準則等で決めていかなければならないのは当然である。

次に純資産要件についてである。取引員のリスクに見合う純資が必要であることは理解できる。では、「取引員のリスク」とは何なのか。自己玉はリスクに違いないが、もう既に一定の自己玉については純資によって建玉制限が設けられている。委託者建玉の10％分の自己玉についてや委託者の建玉に対してのリスクは別に検討することとし、委託者の預り証拠金については完全分離保管されていれば、いくら預り金額が増加してもリスクは生じないはずである。

純資産額規制比率や監督上の処分も今回の改正で明確にされている。今後、政省令で純資産の維持要件を、個々の取引所では会員加入の必要純資産を決めていく訳だが、今まで行われてきた単純合算積み上げ方式等過度に必要純資を大きくすると取引員経営を圧迫するだけでなく、これからの新規上場や地方の取引所の加入、運営などさまざまな弊害につながることが懸念される。

商取法改正という枠組み、骨格は決まった。いうなら、仏の形はできてきた。その仏にどのような魂を吹き込むかが大変重要で、それ等を担っているのが政省令・準則ではないかと思っている。

委託者にとって一安心

「仏」に吹き込む魂が重要に

「私の意見」募集

平成17年4月施行予定の商取法改正についての「私の意見」をシリーズで掲載しています。つきましては、広く会員からの「私の意見」（1、200字以内）を募ります。

連絡・送付先　先物協会編集委員会

新社長

三井物産フューチャーズは高松氏

三井物産フューチャーズの新社長に4月1日、高松公取締役が昇格、就任した。対面営業、商品ファンド販売などに力を入れる方針。三好完治社長は親会社の三井物産にもどった。

高松　公（たかまつ　こう）　慶大経卒。74年三井物産入社、非鉄金属部門が長く、01年三井物産フューチャーズ取締役。広島市出身、53歳。

スターフューチャーズは川崎氏　吉田社長は会長に

スターフューチャーズ証券の新社長に4月1日、川崎芳徳取締役管理部長が昇格、就任した。吉田信明社長は会長に就任、人材育成に努める。

川崎　芳徳（かわさき　よしのり）　66年都立隅田川高卒。76年双葉商事（現スターフューチャーズ証券）入社、02年執行役員管理部長、03年取締役管理部長、東京都出身、57歳。

百十一年の歴史に幕

綿糸市場感謝の集い

大阪商品取引所は4月15日、大阪市中央区のスイスホテル南海大阪の7階・芙蓉の間で、「綿糸市場感謝の集い」を催した。4月末日で綿糸市場を廃止するのに先立ち、綿糸市場に関係したおよそ120人を招いて、これまでの労に感謝した。

大阪商品取引所の綿糸市場は明治26年設立の株式会社内外綿花、綛糸、木綿取引所に始まる。戦後の昭和26年設立の大阪三品取引所（現在の大阪商品取引所）が綿糸市場を再開し、戦前・戦後の綿業界の発展・復興に貢献した。しかし、日本の産業構造の変化に伴って綿業界が衰退し、綿糸市場の廃止を余儀なくされた。

▼天野正義大阪商品取引所理事長の挨拶　すでに他取引所は綿糸市場を廃止しており、残されたただ一つの綿糸市場だった。また、111年におよぶ歴史もあり、存続の道を検討した。だが、明るい展望が開けなかった。

綿糸市場の廃止は本当に残念だ。しかし、ゴムや非鉄の取引が好調で、平成15年の総出来高は600万枚を超え、記録を更新している。綿糸市場で培った伝統と精神を取引所運営に生かし、さらなる発展に向けて努力したい。

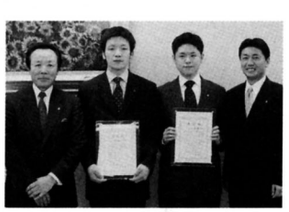
営業マン、人命救助

先物協会表彰

地下鉄の線路に人が落ちている――。4月7日午後4時半ごろ、東京メトロ半蔵門線水天宮前駅でのこと。得意先回りの途中、そこに居合わせたのが岡藤商事の営業マン、平田耕一さん(27)と織田村育郎さん(23)。

ひとりが駅員を呼びに走り、もうひとりが他の男性客と一緒にホームから下り、酒に酔って線路にうずくまっていた男性をかつぎ上げて救助した。見事なチームプレーだった。転落した男性(63)は花見の帰りだったという。

この出来事は読売新聞に商品先物取引会社員のお手柄と報じられ、先物協会は14日、「業界の誇りである」と2人を表彰した。



表彰式で（中央の右が平田氏、左が織田村氏）